中国：資本、ファミリー資産と一帯一路：ジュネーブおよび香港との比較

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

スイスと中国

スイスは1950年1月17日、中華人民共和国を承認した最初の西側諸国の一つでした。2013年には、中国と自由貿易協定（FTA）を締結しました。当時、それを果たした欧州諸国はわずかでした。2015年1月、スイス国立銀行と中国人民銀行は、スイスにおける人民元クリアリングに関する覚書に署名しました。2022年7月以降は、ストック・コネクト制度により、中国企業がSIXスイス証券取引所にグローバル預託証券（GDR）を上場できるようになりました。2022年には10社を超える中国企業がこの制度を通じて約15億米ドルを調達しました。[1]スイスにおける中国の投資として最も注目されたのは、中国化工集団（ChemChina）によるバーゼルの農薬・化学大手シンジェンタの買収です。買収額は約430億米ドルで、2016年2月に発表され、2017年6月26日に完了しました。[2]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ジュネーブ自体も、そのプライベートバンクや商社を通じて中国の富を受け入れてきました。中国のコモディティ・トレーダーもレマン湖のほとりに事務所を構えています。しかし、関係の規模は大きく異なります。ジュネーブにとって、中国は数ある重要な市場の一つにすぎません。ジュネーブ巻第I部が示すとおり、その地域的な専門性はアフリカ、中東および欧州といった別の地域にあります。シンガポールにとって、中国は最大の貿易相手国であり、新たな富の主要な供給源であり、広い意味での隣国です。ジュネーブの銀行家は、異なる言語と異なる法文化を介して、離れた場所から中国人顧客に対応します。シンガポールの銀行家は、顧客と言語を共有し、文化の一部も共有していることが少なくありません。それは関係を円滑にしますが、コンプライアンスに必要な批判的な距離を弱めるおそれもあります。

より近い競争相手としての香港

中国資本をめぐるシンガポールの真の競争相手は香港です。香港は中国の一部でありながら独自のコモン・ロー制度を持ち、ストック・コネクトとボンド・コネクトを通じて本土市場と結ばれています。2024年からは、民事・商事判決の相互承認に関する取決めも本土との間で有しています。[3] ファミリー資産を呼び込むため、香港は新資本投資者入境計画（New Capital Investment Entrant Scheme）を開始しました。この制度は、適格資産に3,000万香港ドル以上を投資する投資家に居住権を付与するものです。[4] 中国企業にとって、香港での上場は依然として国際資本への当然の道筋であり、2026年8月のSheinの上場がそれを裏付けました。

シンガポールの強みは、北京からの距離にあります。資産面だけでなく政治面でも分散を図りたい中国の一族にとって、シンガポールの信託、シンガポールのファミリーオフィスおよびシンガポールでの居住は、香港がもはや提供できない程度の隔たりをもたらします。この強みは同時に限界でもあります。シンガポールが中国の政策からの避難先と見なされるほど、シンガポールは中国政府との関係をより慎重に管理しなければなりませ

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ん。また、規制当局は受け入れる資金がクリーンであることを確保しなければなりません。顧客とは異なり、中国国家は逃避資本を正当なものとは見なしていないからです。

数字で見る

鄧小平のシンガポール訪問：1978年11月。通商代表部の相互設置：1981年9月。外交関係の樹立：1990年10月3日。「全方位の高品質で未来志向のパートナーシップ」への格上げ：2023年4月1日。1990年代半ば以降にシンガポールで研修を受けた中国の公務員：5万人超。蘇州工業園区：1994年2月26日の協定、278km²。天津エコシティ：2007年11月18日の枠組み協定、30km²。中国・シンガポールFTAの発効：2009年1月1日。追加アップグレード議定書の発効：2024年12月31日。2023年のシンガポールの物品貿易に占める中国の割合：13.9%。シンガポールにおける人民元クリアリング：2013年5月から。RQFII枠：500億人民元（2013年）、1,000億人民元（2015年）。2025年の中国による固定資産投資コミットメント：29億シンガポールドルで全体の20.6%（2024年は2.5%）。2023年のマネーロンダリング事件で押収または凍結された資産：約30億シンガポールドル。第13O条または第13U条の優遇措置を受けるシングル・ファミリーオフィス：2,000超（2024年末）。2025年7月の9金融機関に対するMASの制裁金：2,745万シンガポールドル。

注

1. Wikipedia, “China–Switzerland relations”（2026年11月最終閲覧）：1950年1月17日に中華人民共和国を承認し、1950年9月14日から外交関係。2013年に自由貿易協定に署名。2015年1月、スイス国立銀行（SNB）と中国人民銀行（PBOC）の間で人民元クリアリングの取決めに関する覚書。ストック・コネクトは2022年7月下旬に承認され、2022年には10社を超える中国企業がSIXにGDRを上場し、約15億米ドルを調達した。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2. Wikipedia, “Syngenta”（2026年11月最終閲覧）：ChemChinaによる買収提案は2016年2月に発表。価格は約430億米ドル（1株480スイスフラン）。取引は2017年6月26日に完了。本社はバーゼル。 ↩

3. Arrangement on Reciprocal Recognition and Enforcement of Judgments in Civil and Commercial Matters by the Courts of the Mainland and of the Hong Kong SAR（2019年）、2024年1月29日発効。香港特別行政区律政司（doj.gov.hk）。第F部第III章参照。 ↩

4. 香港特別行政区政府、New Capital Investment Entrant Scheme（newcies.gov.hk）：最低投資額3,000万香港ドル。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com